

一人の健康から地球の未来まで

赤塚植物園の

グリーン通信

Green Communication

〇〇〇

vol.282

(2025年1月発行)



春に向けて土作りを始めよう

落葉する果樹や花木が休眠している冬に行う作業のひとつに土作りがあります。冬は春～秋に比べ雑草の密度が低いいため作業しやすく、耕した土を寒風や低温・霜にさらすことで病原菌や害虫を減らすことにも繋がります。

多くの植物が生長し始める春に備え、植物が元気に育つことができる「良い土」を準備しましょう。

土壌の三要素のバランスを改善して 「良い土」を作ってみましょう

土壌には化学性・物理性・生物性の三要素があり、園芸や農業ではこの三要素を重視しています。

この三要素のバランスを、肥料や堆肥などを用いて改善する作業が「土作り」と呼ばれます。

一般的に、化学性を改善するために肥料を、物理性・生物性を改善するために土壌改良材と呼ばれる堆肥などを使用します。

冬に行う土作りは、主に堆肥などを使用して物理性・生物性の改善を目的とすることが多いです。



「団粒構造」でさらに良い土に

団粒構造とは小さな土の粒が集まり大きな粒となり、さらにその粒同士がくっつき大小さまざまな団子状になったものが集まった構造のこと。団粒構造の土壌内はすき間ができ、水はけや通気性が良いだけでなく団子状の粒が適度に水分や養分を保持するため、植物の根張りが良くなります。





「物理性・生物性」を改善する土作りで春に備えましょう

一般的に冬の土作りでは物理性・生物性を改善するための土壌改良材を使います。土壌改良材には大きく分けて腐葉土、堆肥（バーク堆肥、牛糞・馬糞・鶏糞堆肥など）、さまざまなメーカーが出している土のリサイクル材などがあります。それぞれ植物の養分となる他に、土壌の団粒構造化に役立ちます。土壌改良材に含まれる有機質は、土壌中の生き物の餌となり活動を活発化させます。活発化した土壌生物の働きによって土壌の団粒構造化が進み、水はけや通気性、保水・保肥力の向上を期待できるわけです。

オススメの土壌改良材



**FFCバーク堆肥
黒の土作り**

樹皮や木質チップを時間をかけてじっくり熟成させたバーク堆肥。土の栄養源となる腐食が豊富に入っています。赤塚植物園独自の水処理技術「FFC」によって土壌微生物が活発になり、土が柔らかくなります。



**ふかふかによみがえる
古い土のリサイクル材**

花ごころが発売している土壌改良材。一度使用した土に混ぜるだけでふかふかに甦ります。複数の有機質素材配合で土を柔らかくし、排水性を良くします。

実際に土作りにチャレンジしてみよう！

FFC バーク堆肥「黒の土作り」の使い方をご紹介します。

プランターや鉢植えの場合

土に対して2～3割を目安に混ぜ込むと効果抜群です。土の表面に撒くだけでも効果は期待できます。

お庭や花壇に使用する場合

10㎡辺り1袋(20L)を混ぜ込むと効果抜群です。土の表面に撒くだけでも効果は期待できます。

春に向けて
しっかり準備
していきましょう♪



赤塚植物園 アカツカFFCパビリオン

〒514-2293 三重県津市高野尾町1868番地の3 TEL 059-230-2121
【平日】10:00～17:00 【土日祝】10:00～18:00 (1,2月は17:00まで)
毎週火曜定休

赤塚植物園
公式LINE



公式
Instagram



FFCパビリオン 赤塚植物園

